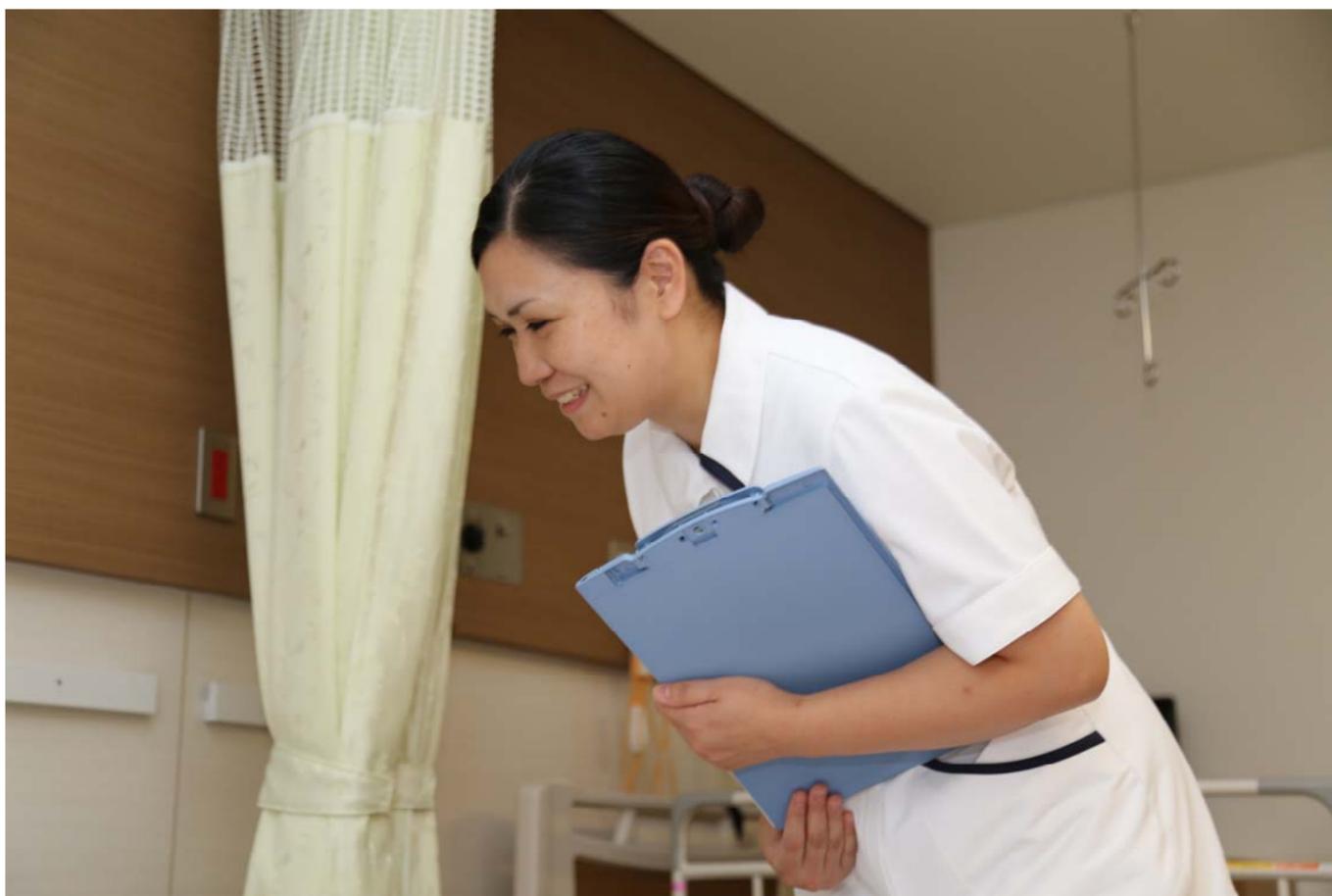


# ChiKaRa

すずかけセントラル病院 広報誌

## Vol. 12

### 特集 緩和ケアについて



## CONTENTS

地域包括ケアと当院の取り組み  
お知らせ・イベント情報

表紙の人 すずかけセントラル病院 4B病棟 看護師  
緩和ケア認定看護師 細井 彩

9月より

「外来化学療法」を開始いたしました

担当医 今井 敦

化学療法には

- ① 抗がん剤を適切に使用して転移、再発を抑える治療
- ② 手術後に再発防止として行う補助療法
- ③ 手術前に腫瘍の縮小目的の術前化学療法

があります。

現在は有効な抗がん剤の種類が増加、副作用に対する支持療法薬の発達により、入院せずに外来で行うことが多くなっています。入院すれば日常生活が制約されますが、外来であれば日常生活を送りながら化学療法を受けられるメリットがあります。外来化学療法は、自分の生活パターンを変えることなく、抗がん剤治療を円滑に行うためのものです。化学療法室は4部屋あり、リラクセスして治療が受けられるように、それぞれにリクライニングベッドとテレビを備え付けがあります。また、何かあればすぐに対処できるよう、専従看護師が配置されています。

レーザートーニングについて

担当医 鶴 信雄



レーザートーニングとは、長い波長のレーザーを、きわめて短い時間の照射を繰り返し行う治療です。皮下組織の再構築を促し、活性化したメラノサイトを破壊することで、肌のくすみやしわを取り除き、肌質を向上させる効果があります。シミ治療の基本である保存療法は、スキンケア方法を組み合わせる事によって、より高い効果が得られます。

新規導入機器紹介

「赤外線観察カメラシステム」について

赤外線観察カメラシステム（IR-Camera）は、乳がんの手術で使用される装置で、組織表面下の血管やリンパ管の動態を簡便にリアルタイムで観察することができるカメラです。

組織表面下のリンパ管の可視化が可能のため、従来の色素法単独で行う場合に比べ、見落としの減少、皮膚切開の位置や範囲の検討が簡便になるなどの利点があります。

有料多床室の導入

9月より3階病棟の多床室に、部屋をセパレートする家具を配置し、有料多床室を設置しました。



今年もきてね！

『すずかけふれあい祭』

「トレーニング教室」について  
浜松市からの委託事業として、要支援・要介護状態になるおそれのある高齢者を対象とした「運動器機能向上トレーニング教室」を、今年も開催しました。  
今年度当院では、9月から3カ月の期間で、1回2時間程度の教室を週1回実施しています。肩こりや腰痛などの症状と、その病態や原因の説明をし、予防や改善が期待できる筋力運動や、バランス練習など、自宅でも行える運動を紹介しています。トレーニング教室に参加し、運動方法を覚えることで、けがや病気の予防が期待できます。  
詳細については、お近くの高齢者相談センターにお問合せください。

編集後記

今回は、当院の特色の一つである「緩和ケア」について特集いたしました。これからも、様々な切り口でご案内していきたいと思っております。ご期待ください。

浜松市南区田尻町120-1

TEL : 053-443-0111 FAX : 053-443-0112

http://www.suzukake.or.jp

発行 すずかけセントラル病院 広報委員会

発行日 平成27年10月13日



# 緩和ケアについて

『緩和ケア』と聞いてどのようなイメージを持たれるでしょうか。近年、緩和ケアの考え方が大きく変わってきています。今回は、緩和ケアの新たな考え方について紹介したいと思います。

## がん治療と共にはじめる緩和ケア

厚生労働省のデータによると、現在、二人に一人ががんに罹患すると言われています。しかし近年では、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせたがん治療の進歩により、生存率が伸び、がんが罹患していても治療を受けながら自宅で生活している方が増えています。以前は、『緩和ケア＝終末期ケア』と認識されていましたが、現在は、『がんと共に生きる時代』と言われるように、緩和ケアをがん治療と共に行なうことが重要とされるようになりました(図1)。

## 緩和ケアとは

では、『緩和ケア』とはどのようなものなのでしょうか。重い病を抱える患者様やそのご家族一人一人の身体や心などの様々なる悩みを和らげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケアです。

がん等の重い病にかかると、「自分の病気は治るのだろうか」などの精神的な悩みや、病気の進行や治療の影響による、様々な身体の不調、また、仕事ができなくなる等の社会的な影響など、多くの問題が出現すると言われています。それらの問題の一つではなく、同時に、または次々に発生し、複雑化してしまうことがしばしば起り、患者様だけでなく、ご家族にも影響を及ぼすことがあると考えられています。緩和ケアでは、その様な患者様やご家族の苦痛や苦悩に対して、身体、精神、社会、スピリチュアルの4つの視点(全人的視点)から全体像を捉え、問題の整理を行ない、解決の糸口を見つけていきます。

# 地域包括ケアシステムと 当院の取組み

## 超高齢社会

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

65歳以上の人口は、現在3000万人を超えており(国民の約4人に1人)、2042年の約3900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代(約800万人)が75歳以上となる2025年(平成37年)以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

## 地域包括ケアシステム

厚生労働省の調査では、「介護が必要となった場合でも7割以上が自宅で介護を希望」「医療についても6割以上が自宅で療養を希望」しています。今後、病院に長期入院する高齢者が増加すれば、必要な治療を受けられない人が増加することが考えられることから、高齢者が疾患を抱えても地域で暮らせる仕組み作りは急務となっています。

このため、厚生労働省では、2025年(平成37年)を目途に「地域包括ケアシステム」として、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい・医療・介護・予防・生活支援」の一体的な提供体制の構築を推進しています。

この「地域包括ケアシステム」は、高齢化の進展状況において大きな地域差があることから、市町村や都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、その特性に応じて作り上げていくことが必要になります。

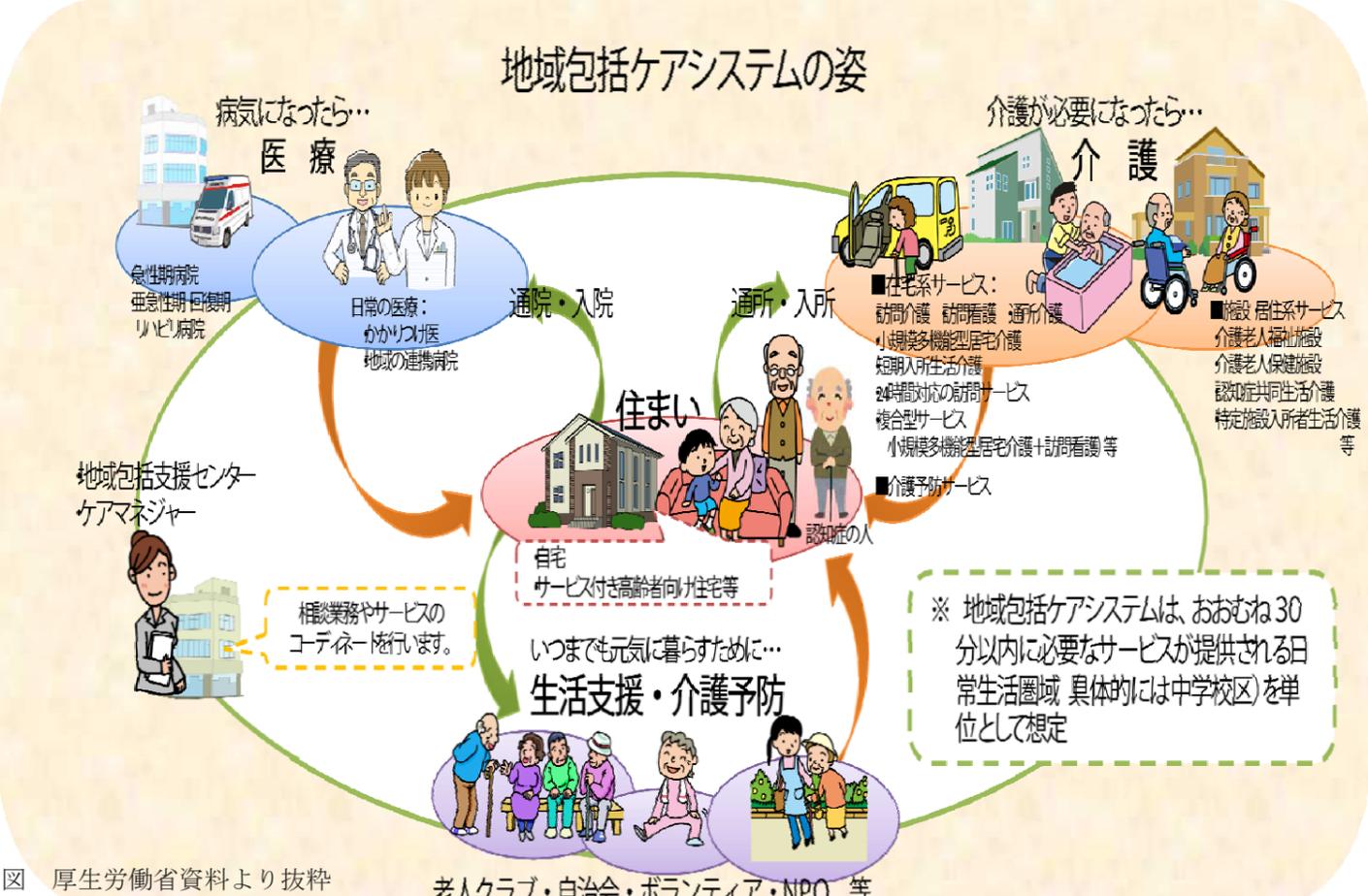


図 厚生労働省資料より抜粋

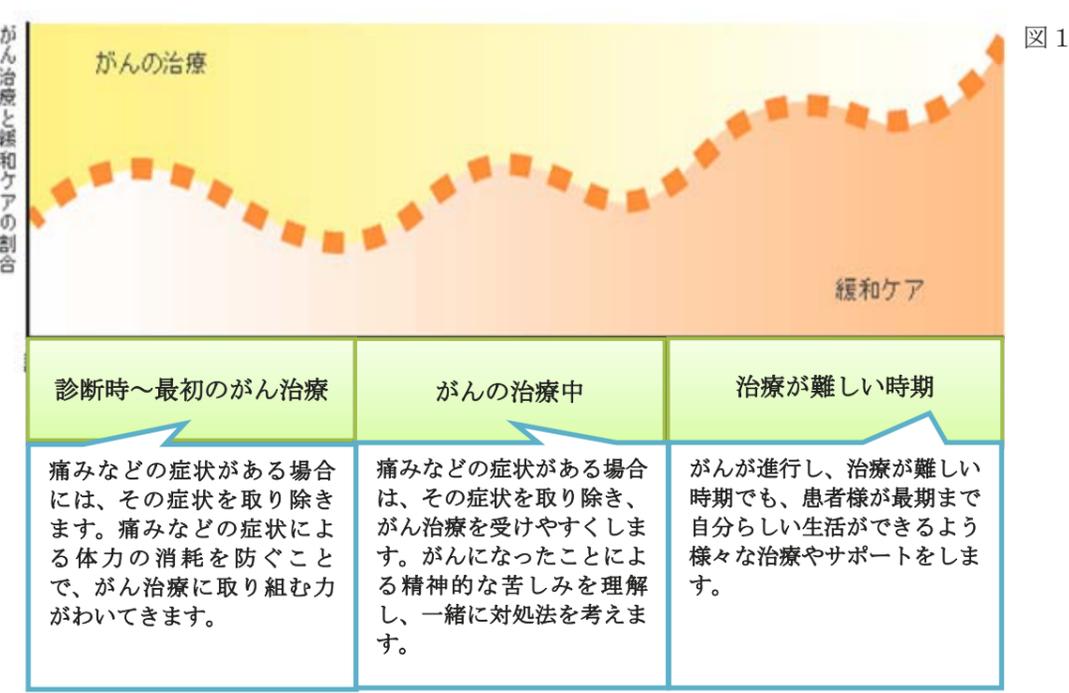


図1

そして、その人らしい生活ができるように、患者様やご家族のお話を伺いながら、多職種で連携を図りアプローチしていきます。

## 当院の緩和ケア活動

当院には、多職種で構成された緩和ケアチームがあり、入院されている患者様の苦痛に対して、毎週水曜日の緩和ケア回診やカンファレンスを通して、主治医や病棟スタッフと情報を共有し、緩和ケアに努めています。緩和ケアチームの関わりは、がんが罹患している方と、そのご家族が対象となります。緩和ケアチームでは、①痛みや呼吸困難、倦怠感、口の中のトラブルなどの身体的苦痛、②患者様やご家族の気持ちのつらさに関するサポート、③日常生活の方法(食事・排泄・清潔・活動・心地よい環境など)、④療養場所や社会資源に関すること等の相談に対応しています。また、当院の療養病棟では、緩和ケアの4つの視点(全人的視点)から患者様を捉え、ケアを行なうように努めています。病名に関わらずご希望があれば、緩和ケア認定看護師が患者様やご家族からお話を伺い、病棟スタッフと協働してケアの方法を考えていくこともできます。

緩和ケアを受けるのに遅いということはありません。必要と感じたときにいつでも受けることができます。

ご希望の際は、病棟スタッフへご相談下さい。



筆者 細井 彩(緩和ケア認定看護師)



## すずかけセントラル病院の取組み

上の図からもおわかりいただけるように「地域包括ケアシステム」は一つの団体のみで実現できるものではありません。行政や関係団体等との連携のもとに構築していく必要があります。

今後は私たちの地域においても、この「地域包括ケアシステム」に向けての取組みが活発になると思われます。当院は、医療分野において早期に対応するため、一部病棟の機能を変更し「地域包括ケア病棟」の設置に向けて準備を進めております。

- この「地域包括ケア病棟」は、
- ①急性期病床からの受け入れ
  - ②在宅等からの緊急時受け入れ
  - ③在宅への復帰支援
- 等の機能をもつ病棟として「地域包括ケアシステム」における必須の役割があると考えております。

この「地域包括ケア病棟」が、私たちの地域において「地域包括ケアシステム」の一翼を担い、今後も高齢の方々が安心して医療を受けられる病院として機能の充実を図っていきます。